

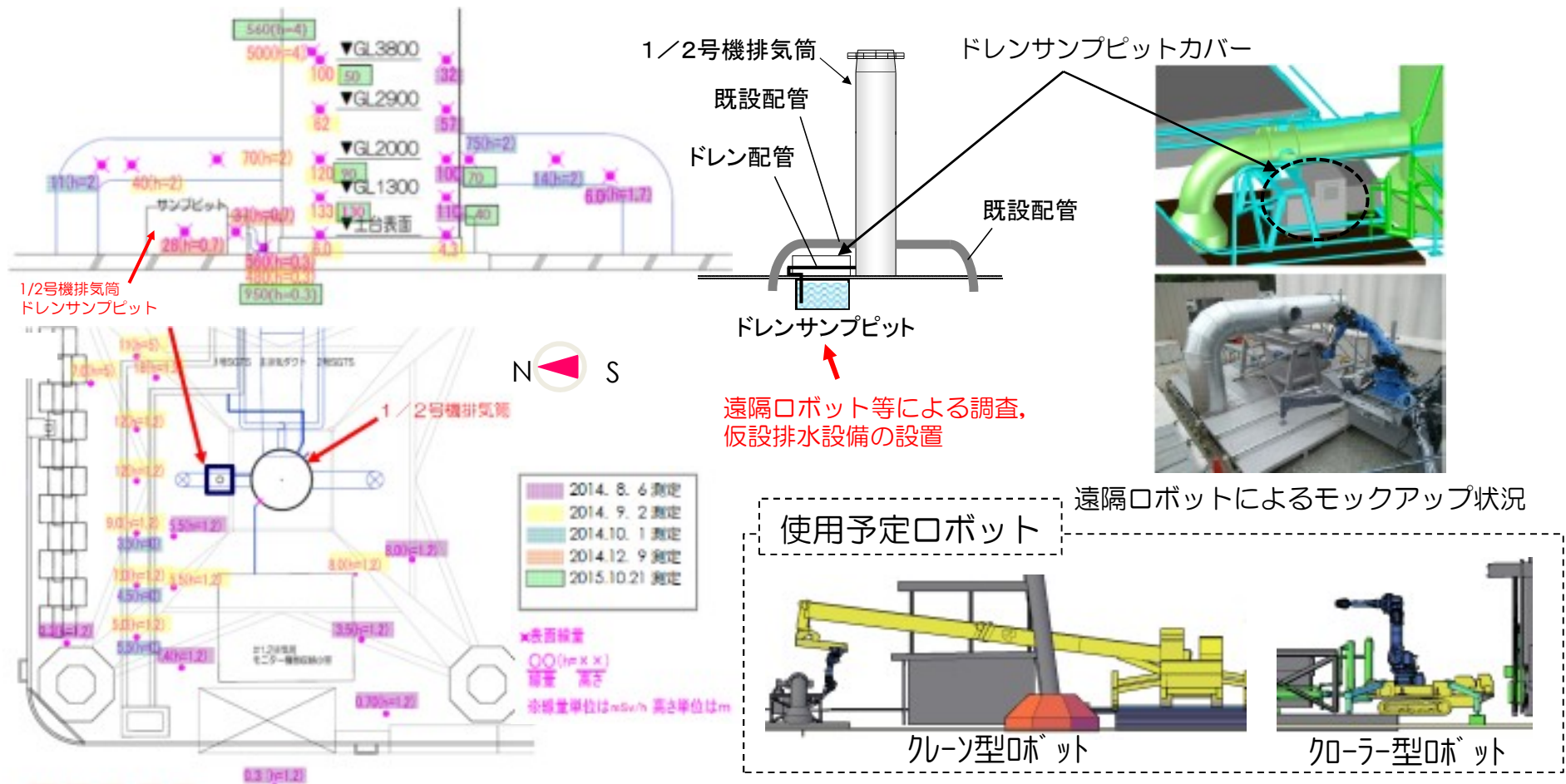
福島第一原子力発電所1/2号機排気筒 ドレンサンプピット対策及び排気筒解体計画について

2016年6月13日
東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO

1. 1/2号機排気筒ドレンサンプピット対策

- 1 / 2号機排気筒周辺については、現在も雰囲気線量が高く調査が困難なエリアである
- 1 / 2号機排気筒ドレンサンプピット内のたまり水について、遠隔ロボット等を用いて水位・水質の調査並びに仮設排水設備の設置を行う
- 狭隘部及び干渉物による作業の困難さから、遠隔ロボット等による作業成立性をモックアップにて入念に確認しており、7月下旬頃より現地準備作業を開始予定



2. 1/2号機排気筒の解体計画

- 損傷した部材を取り除いた解析モデルで、現行基準地震動600Gal(東北地方太平洋沖地震と同程度)に対して地震応答解析を実施し、耐震安全性が確保されていることを確認済み
- 排気筒下部が高線量であること、および現在は排気筒としての機能を有していないことから、大型クレーンを使用して排気筒を半分まで解体し、耐震上の裕度を確保する
- 現在、遠隔解体等の解体方法について検討中

【遠隔解体装置を採用する場合の開発項目】

① 筒身・鉄塔の切断技術

→排気筒の切断位置は高所であり、複雑な構造であることから落下防止のために対象部材の形状に応じて把持しながら切断する機器の開発が必要

② 筒身切断・吊り下ろし時ダスト飛散対策技術

→筒身を解体する際に、ダストが飛散する可能性があるため、飛散抑制対策の検討が必要

【工程案】

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
設計・開発	解体計画, 機器開発・製作, モックアップ			
工事		準備工事	解体工事	
		現場調査を実施し, 工程を調整中		

